

植田室戸市長を自宅にお迎えして ～海洋深層水ワインへの夢～

今田千秋

(海洋深層水利用学会事務局長)

今年1月のある土曜日、高知県室戸市の植田壮一郎市長が東京出張の帰りに、千葉県船橋市の私の自宅を訪ねて下さいました。さっそく自家製の発酵飲料を試飲していただくと、「これは素晴らしい！」と感激のご様子でした。「自分の家でも作ってみたい！」と熱意を見せられ、その場で家庭での発酵飲料づくりのコツを伝授しました。市長がここまで興味を持たれるとは、正直なところ予想以上でした。もしかすると、室戸に新たな名物が誕生する日も近いかもしれません。

そもそのきっかけは、昨年10月に開催された本学会室戸大会の情報交換会でした。そこで植田市長が「室戸の海洋深層水酵母で今までにないおいしいワインを作りたい」としきりにおっしゃっていました。実は我が家では自家製の発酵飲料を試作するのが密かな楽しみであることをお話しすると、とても興味を持って下さいました。この話を聞いたとき、これは面白い展開になるかもしれないと直感しました。

ちなみに、日本の酒税法では、アルコール度数1%以上の酒類を自家醸造することは禁止されてい

ますが、1%未満の発酵飲料を楽しむことは可能です。また、大手インターネット通販サイトでワイン酵母を手軽に入手できるので、誰でも発酵の不思議を体験することができます。身近な材料で微生物の働きを実感できるのも、発酵飲料づくりの魅力のひとつです。

私自身、若いころは時間がなく微生物の発酵実験には挑戦できませんでしたが、大学定年退職後は時間に余裕ができ、自宅で発酵実験を楽しむようになりました。ワイン以外にもヨーグルトや乳酸菌飲料の試作を行い、発酵の奥深さを改めて実感しています。植田市長との会話の中でも、「発酵って何？微生物って何？」といった話題で大いに盛り上がりました。特に海洋深層水を加えることで微生物の生育が良くなり、それだけでなく代謝産物の生産もより活発になるという話をすると、とても興味深そうに耳を傾けて下さいました。

室戸といえば、豊かな海洋深層水があります。もしこの深層水から独自の酵母を分離し、室戸で栽培したブドウで仕込めば、「海洋深層水ワイン」とい



う唯一無二の地酒が生まれるかもしれません。町おこしの新たな切り札として、地元の魅力を発信できる可能性に満ちています。現在室戸の海洋深層水の研究を進めており、もしかしたら近い将来「室戸海洋深層水ワイン」が誕生するかもしれません。

ワインと微生物、そして地域の未来をつなぐこの夢。市長の熱意と、微生物の無限の可能性が、室戸発のワインに繋がるかもしれません。その日が遠くないことを祈っています。